

## Ⅶ 大分県歯科口腔保健計画の 目標値に対する実績値

## Ⅶ 大分県歯科口腔保健計画の目標値に対する実績値

大分県歯科口腔保健計画一新・歯ッスル大分 8020—中間評価・改定版では、各ライフステージごとに合計 26 の指標を定め、目標値（令和 5 年度）を設定している。

今回の調査では、主として成人・高齢期の 8 項目において評価できた。

- 60 歳代における咀嚼良好者\*1 の割合 （目標値：80%以上）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	71.6%
平成 28 年県民健康意識行動調査	72.5%
令和 4 年度県民生活習慣実態調査	66.0%
- 40 歳代で進行した歯周炎に罹患している者 （目標値：35%以下）  
（4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合）

平成 14 年歯周病罹患実態調査	58.5%
平成 28 年県民歯科健康状況実態調査	68.4%
令和 4 年県民歯科健康状況実態調査	62.0%
- 60 歳\*2 で 24 本以上自分の歯を有する者の割合 （目標値：82%以上）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	46.1%
平成 28 年県民歯科健康状況実態調査	77.1%
令和 4 年県民歯科健康状況実態調査	82.1%
- 80 歳\*3 で 20 本以上自分の歯を有する者の割合 （目標値：62%以上）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	34.3%
平成 28 年県民歯科健康状況実態調査	55.1%
令和 4 年県民歯科健康状況実態調査	52.7%
- 定期的に歯科健診を受けている者の割合 （目標値：70%以上）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	42.5%
平成 28 年県民健康意識行動調査	26.5%
令和 4 年度県民生活習慣実態調査	37.4%
- 40～50 歳代における歯間部清掃器具を併用している者の割合 （目標値：60%以上）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	45.1%
平成 28 年県民健康意識行動調査	47.0%
令和 4 年度県民生活習慣実態調査	63.9%
- 喫煙が歯周病の誘引であることを知っている者の割合 （目標値：100%）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	49.1%
平成 28 年県民健康意識行動調査	36.2%
令和 4 年度県民生活習慣実態調査	40.6%
- フッ化物がむし歯予防に効果があることを知っている者の割合 （目標値：100%）

平成 23 年度県民生活習慣実態調査	77.0%
平成 28 年県民健康意識行動調査	78.7%
令和 4 年度県民生活習慣実態調査	83.9%

\*1 咀嚼良好者：何でもかんで食べることができると答えた者

\*2 60 歳：55 歳～64 歳

\*3 80 歳：75 歳～84 歳

## \*算出方法

本報告に示した主な数値等は次の方法によって算出した。

- 1人平均現在歯数

$$1 \text{ 人平均現在歯数 (本)} = \frac{\text{現在歯総数}}{\text{被検査者数}}$$

現在歯数：健全歯、未処置歯、処置歯の合計

被検査者数：検査を受けた者で、う蝕のない者、う蝕のある者、歯のない者の総数

- 1人平均健全歯数

$$1 \text{ 人平均健全歯数 (本)} = \frac{\text{健全歯総数}}{\text{被検査者数}}$$

- 1人平均未処置歯数

$$1 \text{ 人平均未処置歯数 (本)} = \frac{\text{未処置歯総数}}{\text{被検査者数}}$$

- 1人平均喪失歯数

$$1 \text{ 人平均喪失歯数 (本)} = \frac{\text{喪失歯総数}}{\text{被検査者数}}$$

- 1人平均むし歯本数（1人平均DMF歯数）

$$1 \text{ 人平均むし歯数 (本)} = \frac{\text{むし歯総数}}{\text{被検査者数}}$$

むし歯総数：未処置歯（D）、喪失歯（M）、処置歯（F）の合計本数

- むし歯有病者率

$$\text{むし歯有病者率 (\%)} = \frac{\text{むし歯のある者の数}}{\text{被検査者数}} \times 100$$

むし歯のある者の数：未処置歯、処置歯のいずれかを1本以上もつ者の数